

平成 23 年 3 月 13 日 (日) 実施

## 第 30 回 建設業経理事務士検定試験 3 級 解説

### 〔第 1 問〕

- (1) 配当金額収証は現金勘定で処理する。
- (2) 帳簿価格より低い価格で売却したため、有価証券評価損勘定が計上される。
- (3) 材料費の未払いは工事未払金勘定で処理する。
- (4) 前期に生じた売上債権が回収不能となったので貸倒引当金を充当し、これを超える額は貸倒損失勘定で処理する。
- (5) 差し引かれた 4,800 は手形売却損勘定で処理する。

### 〔第 2 問〕

- ① 303 工事の外注費を求める。合計額から材料費、労務費、経費を引いて  

$$241,000 - 78,000 - 65,000 - 42,000 = 56,000$$
- ② 外注費の合計額から、302 工事の外注費前期繰越額を求める。  

$$551,000 - (230,000 + 79,000) - 124,000 - 56,000 = 62,000$$
 302 工事の前期繰越の合計額から、労務費前期繰越額を求める。  

$$199,000 - 53,000 - 62,000 - 38,000 = 46,000$$
- ③ 労務費合計額から、301 工事の労務費前期繰越額を求める。  

$$746,000 - 86,000 - (46,000 + 195,000) - 65,000 = 354,000$$
 301 工事の前期繰越合計額を求める。  

$$465,000 + 354,000 + 230,000 + 109,000 = 1,158,000$$
 未成工事支出金前期繰越額は  

$$1,158,000 + 199,000 = 1,357,000$$
- ④ 材料費の当期発生額は 410,000 より、301 工事の材料費当期発生額は  

$$410,000 - 238,000 - 78,000 = 94,000$$
 材料費の合計額は  

$$(465,000 + 94,000) + (53,000 + 238,000) + 78,000 = 928,000$$
- ⑤ 301 工事の経費当期発生額を求める。  

$$286,000 - 94,000 - 86,000 - 79,000 = 27,000$$
- ⑥ 302 工事の経費当期発生額を求める。  

$$305,000 - (109,000 + 27,000) - 38,000 - 42,000 = 89,000$$
 302 工事の当期発生合計額を求める。  

$$238,000 + 195,000 + 124,000 + 89,000 = 646,000$$
- ⑦ 総合計額は  

$$(1,158,000 + 286,000) + (199,000 + 646,000) + 241,000 = 2,530,000$$

### 工事原価計算表

摘要	301 工事		302 工事		303 工事	合計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	
材料費	465,000	94,000	53,000	238,000	78,000	928,000
労務費	354,000	86,000	46,000	195,000	65,000	746,000
外注費	230,000	79,000	62,000	124,000	56,000	551,000
経費	109,000	27,000	38,000	89,000	42,000	305,000
合計	1,158,000	286,000	199,000	646,000	241,000	2,530,000
備考	完成		完成		未完成	

### 未成工事支出金

前期繰越	1,357,000	完成工事原価	2,289,000
材料費	410,000	次期繰越	241,000
労務費	346,000		
外注費	259,000		
経費	158,000		
	<u>2,530,000</u>		<u>2,530,000</u>

I. 材料費 (465,000+94,000)+(53,000+238,000)=850,000

II. 労務費 (354,000+86,000)+(46,000+195,000)=681,000

III. 外注費 (230,000+79,000)+(62,000+124,000)=495,000

IV. 経費 (109,000+27,000)+(38,000+89,000)=263,000

### 〔第3問〕

21日	(借) 現金	300,000	(貸) 未成工事受入金	300,000
22日	(借) 材料	240,000	(貸) 工事未払金	240,000
23日	(借) 現金	196,000	(貸) 完成工事未収入金	196,000
24日	(借) 販売費及び一般管理費	26,000	(貸) 現金	26,000
"	(借) 材料費	98,000	(貸) 材料	98,000
25日	(借) 労務費	150,000	(貸) 現金	150,000
"	(借) 販売費及び一般管理費	120,000	(貸) 現金	120,000
26日	(借) 外注費	283,000	(貸) 工事未払金	283,000
27日	(借) 支払手形	320,000	(貸) 当座預金	320,000
28日	(借) 工事未払金	210,000	(貸) 支払手形	210,000
29日	(借) 借入金	400,000	(貸) 当座預金	413,000
	支払利息	13,000		
30日	(借) 未成工事受入金	200,000	(貸) 完成工事高	800,000
	受取手形	600,000		



〔第5問〕

(1) 貸倒引当金

受取手形と完成工事未収入金の残高は $\text{¥}173,000 + \text{¥}467,000 = \text{¥}640,000$

$$\text{¥}640,000 \times 2\% = \text{¥}12,800$$

差額補充法で処理するので繰入額は $\text{¥}12,800 - \text{¥}9,400 = \text{¥}3,400$

(借) 貸倒引当金繰入額	3,400	(貸) 貸倒引当金	3,400
--------------	-------	-----------	-------

(2) 有価証券の評価

帳簿価額は $\text{¥}243,000$ なので、評価損は $\text{¥}243,000 - \text{¥}237,000 = \text{¥}6,000$ である。

(借) 有価証券評価損	6,000	(貸) 有価証券	6,000
-------------	-------	----------	-------

(3) 減価償却

工事用機械装置の減価償却費は工事原価であるので、経費として処理する。

一般管理用備品は減価償却費として処理する。

(借) 経費	42,000	(貸) 機械装置原価償却累計額	42,000
減価償却費	28,000	備品減価償却累計額	28,000

(4) 費用の繰延べ

平成×3年2月分まで前払いしている。このうち2か月分来期の家賃である。

(借) 前払家賃	3,200	(貸) 支払家賃	3,200
----------	-------	----------	-------

(5) 工事原価を未成工事支出金へ振り替える。

※決算整理事項(3)の経費も含めることに注意

(借) 未成工事支出金	1,677,000	(貸) 材料費	774,000
		労務費	413,000
		外注費	316,000
		経費	174,000

未成工事支出金のうち当期完成分を完成工事原価に振り替える。

(借) 完成工事原価	1,477,000	(貸) 未成工事支出金	1,477,000
------------	-----------	-------------	-----------

未成工事支出金

前期繰越	186,000	完成工事原価	1,477,000
当期発生	1,677,000		
		次期繰越	386,000